

令和2年 6月 10日

お客さま各位

かながわ信用金庫
理事長 平松 廣司

令和2年3月期決算の概況について

平素から、かながわ信用金庫に格別のご愛顧を賜り、心より御礼申し上げます。

ここに取り急ぎではございますが、令和2年3月期決算の概況をお知らせいたします。

なお、詳細な計数等につきましては、今後、ディスクロージャー誌や業務報告書などでご報告いたします。

かながわ信用金庫は、地域に根を張り、地域の発展なくして信用金庫の発展はないとの信念のもと、自らがお客さまを産み育てる創造的伴走型の「強くてやさしい信用金庫」となるべく、役員一丸となって取り組んでおります。今後とも、変わらぬご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

● 68期連続の黒字決算となりました。

令和元年度決算は、68期連続の黒字決算となりました。項目別では、業務収益は対前期比43百万円増加の12,973百万円、実質業務純益は対前期比110百万円増加の1,939百万円となりました。当期純利益は対前期比168百万円減少の760百万円となりましたが、これは将来の損失に備えて個別貸倒引当金を積みましたことや、昨年度は退職金制度変更に伴う特別利益(207百万円)を計上していたことによるものです。

| | 令和2年3月期 | 平成31年3月期 | 増減額(増減比) |
|--------|----------|----------|------------------|
| 実質業務純益 | 1,939百万円 | 1,828百万円 | +110百万円(+6.06%) |
| 経常利益 | 1,089百万円 | 1,121百万円 | ▲32百万円(▲2.91%) |
| 当期純利益 | 760百万円 | 929百万円 | ▲168百万円(▲18.18%) |

● 自己資本比率は前期比0.2ポイント上昇して7.42%となりました。

自己資本比率は、出資金・利益剰余金(毎年の利益の中から積み立てた内部留保)などの自己資本を貸出金などの資産に対してどのくらいの比率で保有しているかを示す計数で、金融機関の健全性を示す経営指標のひとつです。

令和2年3月期の当金庫の自己資本比率は自己資本の着実な積重ねにより、対前期比0.2ポイント上昇し、国内基準の4%を3.42ポイント上回る7.42%となりました。

● 預金積金残高は前期比1,008億円、貸出金残高は前期比124億円増加しました。

預金積金残高は、個人のお客さまを中心とした預金が対前期比779億円増加し、全体では対前期比1,008億円増加して11,905億円となりました。

貸出金残高は、地域のお客さまのご資金の需要にお応えした結果、対前期比124億円増加の5,490億円となりました。

| | 令和2年3月期 | 平成31年3月期 | 増減額(増減比) |
|--------|----------|----------|------------------|
| 預金積金残高 | 11,905億円 | 10,896億円 | +1,008億円(+9.25%) |
| 貸出金残高 | 5,490億円 | 5,365億円 | +124億円(+2.32%) |

(お問い合わせ先)

かながわ信用金庫 経営企画部

〒238-0004 横須賀市小川町7番地

電話番号 046-826-1515

E-mail:kikaku@kanagawa-shinkin.co.jp

